

国内研修報告書

2015年8月21日から約1週間、島根県隠岐諸島の島前にお邪魔した。島前では地元の中高生との交流会や大学生インターンとの学習会をはじめ、観光でもキンニャモニャ祭りに参加するなど充実した1週間を過ごさせて頂いた。この1週間を通して地域ならではの良さや課題、実際に現地に来たからこそ知りえたことがいくつもあった。

島前高校ヒトツナギ部との交流会では、島ならではの良さや課題を直接聞くことが出来た。島前高校ヒトツナギ部の部員の高校生たちは、島に対して本当に魅力を感じていて、部の活動を通して小・中学生に魅力を知ってほしいという強い熱意が感じられた。私はいま自分が住んでいる地域にとりわけ思い入れがあるわけではないし、ヒトツナギ部の彼らのように熱意を持って地域の魅力については語れないだろうと思うと、少し羨ましくも思えた。高校生の1年間のフィードバックがメインだったため、私たちが質問をしてそれに答えるという形式に自然となっていた。最初はお互い単調なやりとりだったが、部の活動について話し始めていくと自然と高校生の話し方には熱が帯びてきて、さまざまな話を聞くことが出来た。地域の方を交えての振り返りでは、このような機会はあまりないということで普段聞きづらいことも質問していた。ヒトツナギ部の活動を客観的に評価してのお話だったため厳しい内容のものもあった。私が最も強い印象を受けたのは、ヒトツナギ部の高校生たちが思っていたヒトツナギの根本的な目的と地域の方が抱いているものとは多少のずれがあったことだ。高校生は自分たちがサポートにまわり地域の方をメインにすることで、島の魅力を伝えようとするプランを考えていた。しかし、地域の方は高校生がメインになることに意味があると考えているようだった。高校生がメインで頑張るからこそ、それに力を貸してあげたいというのが地域の方の思いであるようだった。高校生も普段聞けない話を聞けてためになったと言っていた。全体的にかなり興味深い話し合いができて充実した時間だった。しかし、地域の方を交えてのフィードバックの際に大学生がなかなか入り込んでいけなかったことが気にかかっている。今回お話しを伺った地域の方と高校生は知り合いのようだった。大学生が進行として話しを進めていったが、高校生と地域の方との関係性や島ならではの内容が分からず、私たちが深くまで話を掘り下げて話しを聞くことが難しかった。そのあたりの理解が大学生側にもう少しあればよりよい交流会になったのではと思う。

大学生インターンとのワークショップは台風の影響で、スカイプを通しての交流になってしまった。ワークショップの内容はさまざまなことを考えさせられる内容ただけに、直接顔を合わせて意見を交換しなかったのが本音だ。このワークショップでは、自分たちが地域に入って行った時の現実を考えさせられるものだった。実際に地域に入っている大学生が数人いたので意見を聞くことが出来たが、「実際、地域に入って自分が役に立って

るかはわからない。」という言葉がかなり印象に残っている。講義や本でいくら学習したからといってそれが必ずしも成功し、役に立つかといえそうとは限らないし、地域に入らないと見えてこないこともあるのだとわかった。地域へのボランティアがただのお客様になってしまっている現状も知ることが出来た。本当の意味で地域に入って役に立つというのはかなり難しいことなのだと考えさせられた。ただ、大学生が地域に入ることの意義や姿勢について今回のような意見を交わし、考える機会を経験出来て良かった。

西ノ島中学校での出前授業では、中学生との交流が素直に楽しかった。前日の打ち合わせでは、「大学生が率先して発言して中学生がワークに取り組みやすいように教えてあげて。」と言われていたため、少し不安感もあった。取り組むワークもそれなりに難しいもので、大学生がやってもそれなりの時間がかかるものだったため、中学生に教え、かつ限られた時間のなかで終わられるかあまり自信がなかったからだ。しかし、いざ始まってみれば、自分から一所懸命にワークの空欄を埋めようとしてくれてなんの問題もなかった。東京、島前と育った環境が異なるからこそ、お互いに興味があって雑談が少し多くなってしまった気もする。ライフストーリーチャートは、一人一人の個性が色濃く出ていて興味深いものだった。ライフストーリーチャートの分岐点が、人間関係の子もいれば、部活での活躍、健康面に偏った子など多種多様だった。中学生も大学生も似たようなことで分岐しており、交流していてとても楽しかった。時間に限りがあったのが少し残念だが、中学生と大学生がお互いに各々の役割をこなせたという面で、かなり互いに刺激になった時間だったと思う。

観光でもさまざまな経験が出来た。キンニャモニャ祭りに参加させて頂いたり、島前の自然を堪能したりと、非常に充実したものだだった。キンニャモニャ祭りでは、あれだけの大人数で同じ踊りを一時間も踊り続けるという初めての体験をした。島前に行く前の事前学習でキンニャモニャ祭りの踊りを練習してから行ったが、実際のお祭りでは周りの人たちが完璧にリズム通りに踊っていて、ついていくのに精いっぱいだった。お祭りでは、島の人たちがあちらこちらで輪をつくって宴会をしていた。時間が経つにつれて輪が大きくなっているところもあって、それだけ島民同士の知り合いが多いのだと思う。これはお祭りだけにかぎったことではないが、島人は顔見知りかどうかに関わらず挨拶をしてくれるように感じた。島観光で島を歩いている時も、すれ違う人のほぼ全員と言っていいくらいの割合で挨拶をしてくれた。これは都心部ではなかなかないことで、知らない人に挨拶をするという習慣自体がない。ひどければ、同じマンション内でもしないことがあるくらいだ。悲しいことだが、都心部では人も多い分、疑いから人を見てしまうのではないかと思う。誰もが信用出来るような人とは限らないし、トラブルは避けたいという思いがどこかにあるのではないだろうか。単純に人が多くて一度すれ違った程度で二度と会わない可能性が高いからというのもあるだろう。ただ、島前で挨拶を通して感じた人とのコミュニケーションはとても良いものだなと思った。ありきたりな言葉になってしまうが、人との“つながり”を強く実感出来た。

島前の自然でもっとも感動したのは、夜見に行った星空だ。夜は本当の真っ暗で空いっぱい広がる星を見ることが出来た。星はもちろんだが、本当の意味での暗闇もかなり貴重な体験だった。都心部では、街頭やビルの光、店の看板など24時間どこかしら電気がついていて、本当の意味での暗闇は存在しない。島前に来て自分の足元さえ見えない暗闇を体験出来た。自分が普段住んでいる環境では当たり前のことが島前では当たり前ではなくて、またその逆もあって、なにからなにまで刺激的な体験だった。

この島前合宿を通して、決して東京では出来ないような様々な経験を積むことが出来た。今回初めて“地域”に入ったが、地域に入ったからこそ分かることが多いと感じた。その地域特有の雰囲気や良さなど、実際に自分で体感することが出来て良かった。正直、今回のような機会でもなければ、島根県隠岐諸島の島前という地域を訪れることはなかったと思う。最初の説明会を聞いたとき、“島前”という場所を知らなかったくらいだ。島前がどのようなところか知りたいという純粋な興味だけで参加したが、自分が想像していたよりも遥かに魅力的な場所だった。いくつかのワークを通して自分の考えを深めることが出来たうえに、同じ大学生なのにここまで深く考え、実行している尊敬出来る人に会えたことは、なによりも良かった。これからの大学生活を考え直すきっかけになった。これだけ貴重な時間を与えてくれた島前という地域はもちろん、地域の方や合宿を作ってくくださった先輩方に対する感謝を忘れないでいたいと思う。